令和5年度

本を楽しむ教室

読書ノートの作成

自分の記憶に残すため、読書ノートに記録する。

記載内容は

① 本の題名　②読んだ日付　③著者名　④出版社

⑤本のあらすじ

⑥感動した文章（何ページの何行目）

⑦疑問に思った文章

⑧読後の感想・自分思った事

⑨読んだ本のディスカッションした内容

今期の推薦図書

本の名前	著者名	出版社
6か国の転校生	ｷﾘｰﾛﾊﾞ・ナージャ	集英社
すみれの花また咲く頃	早花まこ	新潮社
少年と犬	馳星周	文春文庫
銀河鉄道の父	門井慶喜	講談社文庫
夜明けの「M」	林真理子	文春文庫
追懐の筆	内田百聞	中公文庫
時雨の記	中里恒子	文春文庫
綴る女	林真理子	中公文庫
おもかげ	浅田次郎	講談社文庫
地下鉄にのって	浅田次郎	徳間書店
負けるもんか	阿川佐和子	角川書店
火垂るの墓	野坂昭如	文春文庫
銀河鉄道の夜	宮澤賢治	新潮社

5 月に読んだ本

- 「脳みその研究」　　阿刀田高
- 「風が強く吹いている」　　三浦しをん

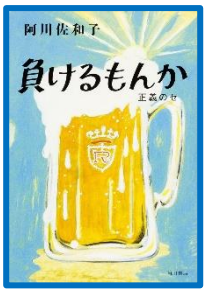
４グループに分かれてディスカッションし、意見・感想を発表した。

6 月に読んだ本

- 「おもかげ」　　浅田次郎
- 「負けるもんか」　　阿川佐和子

おもかげ　感想

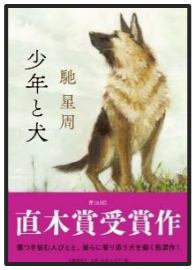
・これまでの人生で何人ものひとと交わってきたけれど、死に時誰に一番会いたいかなぁ？
・人生って良い思い出だけではなく、忘れなければ生きていけないことも山ほどあります。
・主人公が私と同世代の会社員なので感情移入しやすいし、最近遠くなりつつある古き良き、昭和の面影の匂いがします。
・幽体離脱を幻想というには、あまりにリアル過ぎる描写です。
・彼岸と此岸の時空を飛び越えて、母親を知る旅。幸せとは何かを考えさせられました。



負けるもんか　感想

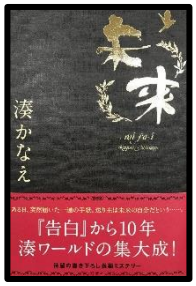
・ 女性が検事の仕事を選び、友人達にも恵まれて、成長していく様を書いていて立派。
・ 人間関係に恵まれ、仕事以外、環境も良く、この先の人生がどう過ぎて行くのかと思った。
・ 男性中心の職場で頑張る主人公の姿にエールを送りながら読んだ。
・ 転勤で尼崎にやって来た検事・凛凛子の元に汚職事件の告発状が届くしたたかな相手に取り調べは進まず、検事は証拠集めに奔走する。
豪快な 110 番担当の虎子や関西弁の青井刑事と協力して捜査を進め、解決に向かう。

7 月に読んだ本



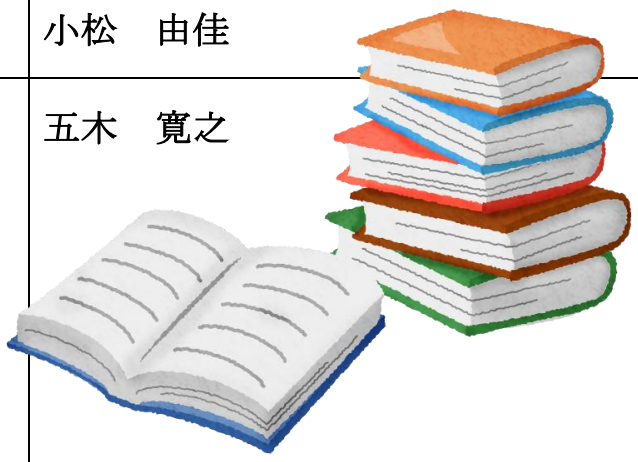
- 「少年と犬」　　馳　星周
- 「未来」　　港　かなえ

3 グループに分かれてディスカッションし、意見・感想を発表した。



夏休みに読みたい本の候補

◎	銀河鉄道の父	門井　慶喜
◎	人間の土地へ	小松　由佳
◎	人生のレシピ 人生百年時代の歩き方 孤独を越える生き方 疲れた心のいやし方	五木　寛之
◎	庭仕事の真髄	スー・スチュアート・スミス
◎	メトロに乗って	浅田　次郎



2 冊以上必ず読みましょう。

学園祭に発表する対象になります。読める人は 5 冊全部読んで下さい

6 月 DVD 鑑賞　アラバマ物語

（あらすじ）

不況の渦巻く＜１９３２年のアメリカ南部・アラバマ州＞

幼い息子と娘の良き父親でもある弁護士フィンチ（グレゴリー・ペック）に暴行事件で訴えられた黒人トムの弁護の責務が下る。

だが偏見根強い南部のこの町の人々は黒人側に付いたフィンチに当然のように冷たく当たった。

この映画はフィンチの子供たちを通す手法で描かれ、そのため問題意識を振りかざさず、父親の苦難や町の横暴をきわめて客観的に描いている。

また、黒人弁護のストーリーと並行して、近所に住む精神異常者ブーと子供たちの関係もこの物語の最後で融合し、深い余韻を持たせた。

（感想）

- 正義感の強い社会派弁護士の奮闘にも拘わらず、無実の被告人を助けられなかったやりきれなさと喪失感が残った。最後をもやもやと纏めてしまうハリウッド映画の偽善性をも感じた。
- 劇中、「人に害を与える鳥は撃ってもよいが、モッキンバードのように人を癒してくれる鳥は撃ってはいけない」という言葉は「白人の生活を脅かす者は撃ってもよい」ということ、つまり黒人に対する差別につながる。
- 父親のやっていることに反感を持つ人たちが、その子供に当たっている。
- 自分の中に差別の意識はないか----人に対して優越感を感じる時、それは差別である。
- 障害者のブーのしたことが、事故として処理されたのは弱いものを助けるという意味だと思う。
- トムが「控訴」を待てず逃走して、撃ち殺されたのは白人である弁護士の言う事が信じられなかったのだろう。黒人差別の長い歴史と根強さを感じた。。
- 毎日の生活の中で、無意識に人を差別していることはないか？改めて考えてみる良い機会になった。
- 自分も障害者であるが、電車の中で席を譲ってくれるのはたいてい老人である。しかし、身体は障害者であっても心まで周囲の親切に甘えないようにしている。
- 色々な面で「差別」がなくなることはないと思う。自分がされた時は感じるが、人に対してしていることはわからない

7 月 DVD 鑑賞　浮雲

【映画】　1955 年制作　東宝作品

監督　成瀬　巳喜男

原作　林　　芙美子

脚本　水木　洋子

出演者　高峰秀子　森雅之　岡田茉莉子　加東大介　山形勲

（あらすじ）

戦時中 1943 年農林省のタイピストとして仏印、(ベトナム）へわたった。ゆき子は同地で農林省技師の富岡に会う。初めは富岡に否定的な感情を抱いていたゆき子だが、妻がいると知りつつ関係を結ぶ。終戦後、妻と別れて君を待っているという言葉を信じ富岡を訪ねたが、はっきりさせようとはしなかった。一度は別れたが、また一諸に伊香保温泉に行き、そこで飲み屋の若妻おせいにも手を出す。おせいは旦那の嫉妬から殺されてしまう。それを子供をおろしに行った病院のベットで新聞で知る。傷心しきっていても富岡が屋久島へ赴任するというと病気をおしてついて行く。屋久島の地で結局命をおとす。